

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-1)・2)	①文化財に関する研修の実施 1)文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○建石徹（保存科学研究センター長）、秋山純子（保存環境研究室長）、相馬静乃（研究補佐員）ほか	

【年度実績と成果】

○第2回博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）を実施した（7月4～8日、受講者19人）。

3年度より保存環境に重きを置いた基礎的な内容を文化財活用センターが「基礎コース」として行い、東京文化財研究所では、「上級コース」としてこれまで博物館・美術館等保存担当学芸員研修を受講されてきた方々や同等の経験を有している方を対象に実施した。

研修内容は次のとおりである。文化財の科学調査（分析科学研究室）、文化財 IPM 概論・実践・実習（生物科学研究室）、屋外資料の劣化と保存（修復計画研究室）、保存環境に関する理論と実習（保存環境研究室）、修復材料の種類と特性（修復材料研究室）、多様な文化財の保存と修復（修復技術研究室）、空気質について、博物館の防災（文化財防災センター）、写真の収蔵管理・取り扱い等、民具の保存、紙の保存修復、大量文書の保存処理、近代文化遺産の保存、文化財修理の実務。



研修の様子

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行ったところ、参加者から有益と評価された。

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

下記観点から評価を行った。①適時性においては、現在博物館・美術館等での課題に対して重点を置いたカリキュラムで実施した点。②独創性においては、東文研保存科学研究センター各研究員等の高い専門性により、他では実現できない研修内容となっており、評価も高い点。③発展性においては、3年度より外部の講師を増やし、多方面の文化財保存に対応できるカリキュラムにした点。④効率性においては、様々な保存修復分野の講義・実習を1週間で学べるよう、時間配分を考えて実施できた点。⑤継続性について、地域の保存担当学芸員に対し研修を行うことで、その地域における文化財保存科学の知識を高めることができた。よって、所期の計画通り、効率的に事業が進められたと判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	B	B	B
【目標値】 (1) アンケートによる研修成果の活用実績 80%以上	【実績値・参考値】 (実績値) (1) 研修成果の活用実績 94% (参考値) (1) 実施件数 1件 (2) 受講者数 19人				定量評価
					B

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由	5か年計画の2年目にあたり、3年度の研修内容を踏まえ、外部講師を増やしたことにより、より多角的な講義・実習の研修を実施することができた。受講者向けのアンケートでは大変有益であったという評価を得た。中期計画では文化財活用センターは基礎的内容、当研究所は応用的内容の研修を独自に主催することになっており、保存環境だけではなく修復や保管方法等、文化財保存の応用的な内容を実施することができた。以上の理由から、中期計画の5か年の2年目を有益に遂行できたといえる。

中期計画の項目	2-(5)-①	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-①-2)	①文化財に関する研修の実施 2)研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。
プロジェクト名称	文化財担当者研修	
企画調整部 研究支援推進部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○加藤真二（企画調整部長兼企画調整室長）、林洋平（総務係長） ほか	
【年度実績と成果】		
○新型コロナウイルス対策として規模を縮小した上で研修を実施した。		
①建造物保存活用計画策定課程 7月4日～7月8日 15名		
②文化財デジタルアーカイブ課程 7月25日～7月29日 68名（うちオンライン参加50名）		
③遺跡調査技術課程 9月12日～9月16日 33名		
④層序学・堆積学・土壌学基礎課程 9月26日～9月30日 23名		
⑤保存科学（材質・構造調査）課程 10月11日～10月14日 7名		
⑥保存科学（遺構・石造文化財）課程 10月17日～10月21日 8名		
⑦中・近世瓦調査課程 11月9日～11月11日 19名		
⑧文化財写真課程 11月21日～12月2日 10名		
⑨報告書編集基礎課程 12月5日～12月9日 14名		
⑩報告書デジタル作成課程 12月12日～12月16日 10名		
⑪史跡等保存活用計画策定課程 5年1月17日～1月23日 12名		
⑫文化的景観調査計画課程 5年1月30日～2月3日 3名		
⑬文化財三次元計測入門課程 5年1月17日～1月23日 20名		
⑭（特別研修）文化財多言語化課程 5年3月10日 70名（オンラインのみ）		
○遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、専門研修13課程・特別研修1課程の研修を実施し、延べ312人が受講した。		
○10月31日～11月2日に開催予定であったデータベース活用課程は、出張しての実施を計画していたが、受入予定先の新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となった。		
○②文化財デジタルアーカイブ課程においては、対面と併せオンラインでも研修を実施し、50名の受講者があった。		
○研修受講者に対するアンケート調査では、100%から「有意義であった」「役に立った」との回答を得ており充実した研修が実施できた。		
○派遣元を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を2月～3月に実施した。		

年度計画評価	B				
【評定理由】					
①適時性においては、史跡等保存活用計画策定課程など、公共性、緊急性が高い研修を行った。②独創性においては、いずれの研修も当研究所以外では実施していない我が国では唯一無二のものである。かつ常に、最新の知見を盛り込み、研修内容の独自性、新規性、卓越性を備えて実施した。③発展性においては、研修後の業務における実践を重視し、基礎的な内容とともに、最新の知見・技術の紹介を講義に盛り込み、全国の文化財担当者の水準向上に寄与した。④効率性においては、基本的に5日間、研究所の既存設備、適任者で行うこととし、時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性を達成して実施した。また、文化財デジタルアーカイブ課程などにおいては、オンラインによる講義を積極的に実施した。⑤継続性においては、文化財担当者研修は、前身の埋蔵文化財担当者研修及び埋蔵文化財発掘技術者研修を含め、昭和49年より継続しており、のべ受講者数も11,251人となった。					
定量的評価の観点においては、講義・実験室の密をさけるため、対面での講義の定員数を限定したが、かえってかなり深く掘り下げた講義内容につながった。研修成果の活用状況も89%と目標を達成しており、B評価とする。以上のとおり、所期の目標を達成したため、年度計画評価をBとした。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	A	A	B	B
【目標値】 ・研修成果の活用状況 80%	【実績値・参考値】 (実績値)・研修成果の活用状況 89% (参考値)・研修の実施件数 14課程 ・研修の受講者数 312人				定量評価
					B

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等の文化財担当者等に対し文化財に関する研修を行うとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を行う。 なお、研修の評価については、アンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。
評定理由	定性評価については、いずれの観点もB以上で、特に、独創性、発展性ではAと評価できた。また、定量評価については、研修成果の活用状況80%の目標を達成した。13課程・特別研修1課程を実施し、オンラインによる講義などを取り入れたこともあり、受講者数も対前年比+173名と大幅に増加した。このため、本事業は順調に推移しているとして、Bと評価した。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の収集、保管に関する指導助言	
文化財情報資料部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○江村知子（部長）、二神葉子（文化財情報研究室長）、小野真由美（日本東洋美術史研究室長）、橋川英規（文化財アーカイブズ研究室長）、安永拓世（広領域研究室長）ほか	
【年度実績と成果】		
<p>1. 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員として日本における世界遺産条約の履行のあり方に関する検討での助言</p> <p>2. 文化庁の非常勤調査員として熊野速玉大社所蔵の国宝古神宝類に関する保存・現状調査・保存計画の協議と助言</p> <p>3. 文化庁の非常勤調査員として重要文化財の草堂寺方丈障壁面の現状調査と今後の修理計画に関する協議・助言</p> <p>4. 国立歴史民俗博物館運営会議委員・資料収集委員会委員として博物館運営に関する検討での助言、および同館資料収集委員会委員として作品収蔵に関する検討での助言</p> <p>5. 国際交流基金・欧米ミュージアム基盤整備支援事業評価委員として欧米の美術館の活動に関する検討での助言</p> <p>6. ふくやま美術館で開催する展覧会「名刀 江雪左文字」展に関わる展覧会の企画・展示に関する指導・助言</p> <p>7. 茨木市文化財資料館郷土史教室での講演</p> <p>8～38. 以下、文化財調査・保管等に関する協力・助言 愛知県美術館、足立区郷土博物館、逸翁美術館、和泉市久保惣記念美術館、大阪城天守閣、大村市歴史資料館、神奈川県立歴史博物館、鎌倉市教育委員会、岐阜市歴史博物館、京都府教育委員会、甲賀市教育委員会、角屋もてなしの文化美術館、東京大学総合図書館、徳川美術館、長崎歴史文化博物館、中之島香雪美術館、南蛮文化館、日本二十六聖人記念館、林原美術館、広島県立美術館、フェルケール博物館、文化財建造物保存技術協会、文化ファッション研究機構、北海道立北方民族博物館、大和文華館、理智院、和歌山県立博物館、寄暢園（台湾）、ポルトガル・ミレニアムBCP財団、パウアー財団東洋美術館・リートバルク美術館（スイス）</p>		

年度計画評価	B				
【評定理由】					
<p>下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等からの文化財に関するさまざまな要請に対して、適時及び適切な指導・助言を行うことができた。②独創性及び③発展性においては、各職員の有するスキル・専門性を存分に活用し、ほかではできない当研究所独自の指導・助言を実施できた。④効率性においては、担当を分けることによって、専門性の高い指導・助言を実施した。⑤継続性においては、国立歴史民俗博物館の運営に関する助言をはじめ継続的に実施しているケースにおいて、指導・助言を通して高い信頼関係を築くことができた。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。</p>					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】				定量評価
	(実績値) ・指導・助言 38 件				—

中期計画評価	B	
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。	
評定理由	文化財情報資料部に要請された様々な文化財に関する依頼・要請に対して、適時、継続的に、職員の有するスキル・専門性に基づいて協力し、適切な指導・助言を行ったので、Bと判断した。5年度も引き続き、外部からの要請に対して協力・適切な指導・助言を行っていきたい。	

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言	
無形文化遺産部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○早川泰弘（部長）、久保田裕道（民俗文化財研究室長）、前原恵美（無形文化財研究室長）、石村智（音声映像記録研究室長）ほか	

【年度実績と成果】

- 無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する助言
- ・文部科学省への教科用図書検定調査審議会第6部会音楽小委員会に関する助言1件
 - ・文化庁への文化審議会に関する助言3件
 - ・文化庁への審査に関する助言3件
 - ・文化庁への調査員としての楽器を中心とした文化財保存技術に関する助言1件
 - ・伝統芸能用具・原材料に関する調査委員会における当該調査及び助言1件
 - ・山形県への文化財保護審議会・文化財保存活用大綱策定作業部会・文化財調査に関する助言2件
 - ・千葉県への博物館資料審査委員会に関する助言1件
 - ・東京都への審査に関する助言2件
 - ・東京都民俗芸能大会実行委員会への助言2件
 - ・神奈川県への民俗芸能記録保存調査企画調整委員会に関する助言1件
 - ・山梨県への文化財保護審議会に関する助言3件
 - ・島根県への古代文化センターに関する助言1件
 - ・沖縄県への武術的身体表現を伴う行事調査に関する助言1件
 - ・静岡市への文化財保護審議会・民俗文化財調査に関する助言3件
 - ・武蔵野市への文化財保護委員会に関する助言1件
 - ・大豊町への基石茶製造技術調査委員会に関する助言1件
 - ・独立行政法人日本芸術文化振興会への審査、公演事業及び普及事業に関する助言1件
 - ・国立歴史民俗博物館への共同研究への助言2件
 - ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への運営に関する助言2件
 - ・公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団への伝統文化ポーラ賞に関する助言1件
 - ・一般財団法人日本青年館への全国民俗芸能大会企画に関する助言1件
 - ・文化女子大学文化ファッション研究機構への助言1件

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

下記各観点から評価を行った。①適時性においては、特に文化庁が行う「デジタル技術を活用した伝統行事の公開支援」等コロナ禍からの復興に関する支援事業に積極的に協力するとともに、無形の登録文化財など新たな制度に関する地方自治体への指導助言など、新たな無形文化遺産保護の施策に反映された点で高く評価できる。②独創性においては、従来の調査研究に基づく視点はもちろん、食文化などの新たなジャンルや、映像制作など新たな活用の方法論などについても指導・助言をしている点が高く評価できる。③発展性においては、コロナ禍からの再開や文化財の活用といった新たな見識が求められる指導・助言が継続的に実施できた。④効率性においては、少人数ながら専門性において各分野に適した研究員が対応できている。⑤継続性においては、無形文化遺産に関わる省庁、地方行政、関連法人等からの依頼に対して、継続的に指導・助言を行うことができている。以上の点から、定性評価として十分な評価ができると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) 助言 35 件				定量評価
					—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	対面の会議も復活の傾向にあり、例年通り、多様な助言依頼に対応できている。特に新たに登録無形文化財の登録の対象となった食文化などのジャンルについて指導・助言できたことは評価できる。また、助言による先方への協力のみならず、無形文化遺産をめぐる現状と課題のための情報収集にも貢献できている。以上より、中期計画を順当に遂行できていると判断し、B評定とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の虫菌害に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○佐藤嘉則（生物科学研究室長）、島田潤（アソシエイトフェロー）、建石徹（センター長）	
【年度実績と成果】 <p>○これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献した。</p> <p>○主な虫菌害問題の相談元は、例年の通り、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺などの文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。</p> <p>○対応件数は合計で47件あり、電話、電子メール、WEB会議などで対応し、必要に応じて現地での調査を行い、問題解決に努めた。</p> <p>○相談内容は、虫菌害の同定相談から殺虫・殺菌処理に使用する薬剤に関することなどの一般的な相談案件ほか、屋外の木造文化財建造物ではキホリハナバチの営巣に伴う被害事例といった長期の調査によって原因が判明したような被害事例もあった。</p> <p>○遺構や古墳などでの植物根の被害、カビや藻類の発生など生物種を問わず多岐にわたる相談があった。また鳥獣害、特に木造建造物での被害相談件数があり、一年を通して対応が必要な案件もあった。</p> <p>○文化財の虫菌害を未然に防ぐための啓発・普及活動の一環で、生物被害に関する研修講師を8件担当した。その際に生物科学研究室で作成した啓発普及ポスターを配布し、広報普及活動を行った。</p>		



木造文化財建造物のハチによる加害事例

年度計画評価	A
--------	---

【評定理由】					
下記の各観点から評価を行った。①適時性においては、被害の拡大を防ぐことが最優先となる生物被害対策において、全国から寄せられた相談案件に対して迅速かつ適切に対応することができた点を高く評価した。②独創性については、動産・不動産いずれの文化財も対象とし、虫菌害をはじめ植物や鳥獣害など幅広い生物被害に対応した。特に虫害・菌害はそれぞれの専門家を有し、総合的に対応する点で他機関にはない独自性がある。③現状の課題や新たな文化財害虫の状況を把握することができることで基礎研究課題を発掘できる点に発展性がある。④効率性については、限られたプロジェクトスタッフそれぞれの専門性を生かして、短時間で現地調査や分析試験を分担し、相談を受けた全案件に対応することができた点が高く評価できる。⑤相談案件は毎年度寄せられており、相談窓口としての認識が広く普及していること、そしてそれらに継続して対応することができていることが評価できる。よって、当初の計画を上回る事業実績が達成されていると判断した。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	A	B
【目標値】	【実績値・参考値】				定量評価
	・協力・助言実施件数47件 ・研修等講師対応件数8件				—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画に沿い、国や地方公共団体等からの文化財に関する生物被害の要請に対して協力・助言を行い、文化財の保存に関する質的向上に貢献することができた。生物被害は緊急性を要することが多く迅速な対応が求められるが、通常業務との調整を行い優先して取り組むことができた。一方で、年々相談案件数は多くなっており、限られた人員で対応する事が困難となってきた。そのため、生物被害に関する相談案件の絶対数を減らすことが重要で、啓発普及活動を継続して取り組んでいく必要がある。以上、中期計画の2年目として順調に業務が遂行されたといえる。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、建石徹（センター長）、早川典子（修復材料研究室長）、倉島玲央（研究員）、芳賀文絵（研究員）、千葉毅（研究員）、中山俊介（特任研究員）	

【年度実績と成果】

○4年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、国宝白朽磨崖仏、国宝平等院鳳凰堂、国宝東照宮東西廻廊、国宝キトラ古墳壁画、国宝姫路城、国宝東大寺金堂（大仏殿）、特別史跡王塚古墳、史跡端島炭鉱跡、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡葦山反射炉、史跡高島炭坑跡、史跡原爆ドーム、史跡原城跡、史跡日野江城跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡屋形古墳群、史跡田主丸古墳群、史跡吉見百穴、史跡築瀬二子塚古墳、史跡旧新橋停車場跡及び高輪築堤跡、史跡出島和蘭商館跡、史跡薬師堂石仏、史跡竹田城跡、史跡清戸迫横穴、重要文化財通潤橋、重要文化財氷川丸、重要文化財多賀城碑、重要文化財頼賢碑、重要文化財祇園橋、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財厳島神社多宝塔板絵、重要文化財二条城杉戸絵、重要文化財琉球芸術調査写真（鎌倉芳太郎撮影）、重要文化財法隆寺金堂壁画、重要文化財金剛峰寺奥院経蔵、重要文化財樵夫蒔絵硯箱、重要文化財厳島神社五重塔、重要文化財赤糸威鎧、重要文化財能装束（葎水禽文様）、重要文化財羅漢寺石仏、重要文化財祇園橋、重要文化財旧帝國京都博物館本館、重要文化財東大谷日女神社石燈籠、重要文化財日本丸、重要文化財旧小野田セメント製造株式会社竪窯、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物龍河洞、名勝円月島（高嶋）及び千畳敷、福山市鞆町重要伝統的建造物群保存地区、熊本県内被災古墳



図. 厳島神社多宝塔板絵の調査

○地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

首里城、川崎市市民ミュージアム、京都府指定木造彩色宝珠台（海住山寺）、鎌倉市指定文化財紙本著色束帯天神像、東京都第5福竜丸、航空協会航空関連紙資料、栃木市星野遺跡、久留米市益生田古墳群、奥尻町鍋釣岩、浅口市三ツ山、新見市井倉洞、登録有形文化財機那サフラン酒製造本舗土蔵

年度計画評価	B				
【評定理由】 下記各観点から評価を行った。①適時性においては、福島県沖地震など、4年度に被災した文化財にも直後に対処しており、社会の要請に的確かつ速やかに応えることができたことを評価した。②独創性においては、3年度の天然記念物に加え、名勝や伝統的建造物群などのさらに多くのカテゴリの文化財に対して適切に助言を行うことができた点を高く評価した。③発展性においては、現在修復事業が行われている現場への協力を行っており、今後の発展性が期待される。④効率性においては、オンラインで指導助言や会議出席を増やすことで効率化が図られた。⑤継続性においては、高松塚古墳やキトラ古墳等、長年継続的に取り組んでいる事業に4年度も継続して寄与してきた。よって、総合的に順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) 指導・助言件数 64件				定量評価
					—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	3年度までの感染防止策としての観点ばかりでなく、効率化という観点からもオンライン対応を積極的に活用することで、さらに多くの対象に対して協力を行うことができた。また、協力した文化財のカテゴリでも、さらに様々な範疇の文化財に関わる機会が増えてきている。以上の理由から、中期計画に従って順調に進行していると言える。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1) 文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	文化財の材質・構造に関する調査・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○犬塚将英（分析科学研究室長）、紀芝蓮（アソシエイトフェロー）、早川泰弘（副所長）	
【年度実績と成果】 4年度は、蛍光X線分析・X線回折分析・ハイパースペクトルカメラによる材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。		
○材質調査 ・ 絵画（大阪中之島美術館、4月）、・ 日本画屏風5点（絵金蔵、5-6月）、・ 建造物彩色（高德院、6-7月）、・ 金工品（徳島県立近代美術館、7月）、・ 漫画原稿（手塚プロダクション、7月）、・ 歴史資料（個人蔵（茨城県立歴史館寄託品）、7月）、・ 国絵図（島根大学、7月）、・ 被災漆工品3点（沖縄美ら島財団、8月）、・ 油彩画2点（個人蔵、9月）、・ 漆工品（MOA美術館、10月）、・ 日本画屏風（法然院、10月）、・ 密教法具（小網寺、10月）、・ 漆工品（永青文庫、10月）、・ 木彫像光背（上徳寺、10月）、・ 経典（平等院、10月）、・ 仏画（平等院、10月）、・ 日本画4点（千葉市美術館、11月）、・ 金銅仏（個人蔵、12月）、・ 板戸絵5点（石垣島宮良殿内、12月）、・ 漆工品（MOA美術館、1月）、・ 絵画（香川県立ミュージアム、3月）		
○構造調査 ・ 絵画（個人蔵、6月）、・ 歴史資料（個人蔵（茨城県立歴史館寄託品）、7月）		



建造物彩色の材質調査

年度計画評価	B				
【評定理由】 下記各観点から評価を行った。①適時性においては、所蔵先からの要請に応じて材質調査・構造調査を実施し、調査後は速やかに調査報告書を作成するとともに、材質・構造に関する助言を行った。②独創性においては、顕微鏡観察、蛍光X線分析、X線回折分析、可視分光分析、X線透過撮影などの複数の手法を適用し、互いに補完しながら調査で得られた結果の考察・検討を行った。③発展性においては、ハイパースペクトルカメラを用いた調査の実績を蓄積し、新しい分析結果などに関する情報発信を従来よりも積極的に行った点を高く評価した。④効率性においては、設置方法及び機材の輸送方法の改良を重ね、材質・構造調査の効率が向上した。⑤継続性においては、20年以上にわたる調査実績を有し、他所を凌駕する精度の調査結果を継続的に報告している点を高く評価した。よって、所期の計画通り、事業が推移していると判断した。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	A
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) 調査・助言件数 36件				定量評価
					—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の2年目である4年度は、3年度に引き続き、これまでに当研究所が実践してきた科学的調査技術を駆使して、文化財の材質・構造に関する調査・助言を継続的に行った。4年度は、ハイパースペクトルカメラを用いた反射分光分析及びその2次元マッピングによる調査の件数がさらに増加し、蛍光X線分析などの他の分析手法から結果を補完する新たな切り口からの分析データの蓄積が進んでいる。以上の理由から、中期計画の2年目として、順調に遂行されたといえる。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○秋山純子（保存環境研究室長）、建石徹（保存科学研究センター長）、水谷悦子（文化財防災センター、（併）東文研）	
【年度実績と成果】		
○国指定品の所有者以外による公開、公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査の相談窓口は文化財活用センターに一本化されたが、引き続き文化財活用センターと協力しながら、当研究所では公立美術館・博物館、社寺等から保存環境に関する相談を受け、相談内容に応じて援助・助言を行った。特に4年度は美術館で消費電力エネルギーの測定なども実施し、実際のエネルギー消費に即した空調運用に対して助言を行った。		
○新型コロナウイルスに対する博物館等でのウイルス除去・消毒作業に対し、消毒用薬剤等による文化財への影響と消毒薬剤の選択について、文化庁・文化財活用センター・当研究所保存科学研究センターの三者で協力し、その対応に当たった。		

年度計画評価	B				
【評定理由】					
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、時世の省エネに伴う相談に対し、空調等に関する援助・助言を行うことができた点を評価した。②独創性においては、展示ケースにおける空気質の発生源を調査し、環境改善のための情報提供ができた。③発展性においては、実際の美術館で消費電力エネルギーの測定を実施し、これからの省エネを念頭に置いた空調運用に関して助言することができた。④効率性においては、多岐にわたる相談に対して、文化財活用センター・東京文化財研究所保存科学研究センターとで協力して対応できた。⑤継続性においては、保存環境に関する相談に対し、それぞれの館の状況に沿った助言を継続して行った。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)				定量評価
	・保存環境に関する相談対応 41件 ・新型コロナウイルスに関する相談対応 0件				—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	様々な博物館・美術館等からの保存環境に関する問い合わせに対し、館の状況に沿った援助・助言することができた。5年度においても、保存環境研究の一環として、様々な環境事例への対応・調査を進め、調査研究成果の発信を積極的に行う予定である。以上の理由から、中期計画の2年目を順調に遂行できたといえる。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等																																								
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。																																								
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言																																									
都城発掘調査部 (平城地区)	【プロジェクトスタッフ(責任者に○)】 ○箱崎和久(都城発掘調査部長)ほか、同部平城地区部員16名																																									
【年度実績と成果】																																										
<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体等の要請に対して特別史跡平城宮跡等、あるいは建設工事に伴う平城京跡や寺院旧境内の発掘調査及び工事に伴う遺跡の保護のための立会調査を実施した。 <p>受託研究による発掘調査の概要は次のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>次数</th> <th>遺跡名</th> <th>調査面積</th> <th>調査期間</th> <th>主な検出遺構・出土遺物等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第647次</td> <td>平城京左京一条二坊十坪</td> <td>70㎡</td> <td>4月4日～4月28日</td> <td>東西溝</td> </tr> <tr> <td>第649次</td> <td>興福寺旧境内</td> <td>335㎡</td> <td>7月5日～11月18日</td> <td>東金堂院北面回廊基壇、雨落溝、土坑</td> </tr> <tr> <td>第650次</td> <td>平城京左京三条一坊二坪</td> <td>686.5㎡</td> <td>9月26日～5年1月30日</td> <td>掘立柱建物、塀、溝等</td> </tr> <tr> <td>第651次</td> <td>法華寺旧境内</td> <td>10.4㎡</td> <td>10月11日～10月19日</td> <td>遺構なし、瓦と土器が出土</td> </tr> <tr> <td>第653次</td> <td>法華寺旧境内</td> <td>262.6㎡</td> <td>11月2日～12月16日</td> <td>南北溝3条、掘立柱建物2棟、柱穴列3条</td> </tr> <tr> <td>第654次</td> <td>西大寺旧境内</td> <td>146㎡</td> <td>5年1月11日～2月3日</td> <td>井戸2基、土坑3基、柱穴1基等</td> </tr> <tr> <td>第655次</td> <td>西大寺旧境内</td> <td>44㎡</td> <td>5年3月1日～4月3日</td> <td>基壇土、壺地業6基、礎石抜取穴6基等</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 奈良県・奈良市等の要請に対して実施した工事等への立会調査 計15件、延べ30日 国土交通省平城宮歴史公園事務所に対して実施した工事等への立会調査 計4件、延べ23日、その他打ち合わせ等対応：10件 文化庁に対して実施した工事等への立会調査 計5件、延べ5日、その他打ち合わせ等対応：7件 			次数	遺跡名	調査面積	調査期間	主な検出遺構・出土遺物等	第647次	平城京左京一条二坊十坪	70㎡	4月4日～4月28日	東西溝	第649次	興福寺旧境内	335㎡	7月5日～11月18日	東金堂院北面回廊基壇、雨落溝、土坑	第650次	平城京左京三条一坊二坪	686.5㎡	9月26日～5年1月30日	掘立柱建物、塀、溝等	第651次	法華寺旧境内	10.4㎡	10月11日～10月19日	遺構なし、瓦と土器が出土	第653次	法華寺旧境内	262.6㎡	11月2日～12月16日	南北溝3条、掘立柱建物2棟、柱穴列3条	第654次	西大寺旧境内	146㎡	5年1月11日～2月3日	井戸2基、土坑3基、柱穴1基等	第655次	西大寺旧境内	44㎡	5年3月1日～4月3日	基壇土、壺地業6基、礎石抜取穴6基等
次数	遺跡名	調査面積	調査期間	主な検出遺構・出土遺物等																																						
第647次	平城京左京一条二坊十坪	70㎡	4月4日～4月28日	東西溝																																						
第649次	興福寺旧境内	335㎡	7月5日～11月18日	東金堂院北面回廊基壇、雨落溝、土坑																																						
第650次	平城京左京三条一坊二坪	686.5㎡	9月26日～5年1月30日	掘立柱建物、塀、溝等																																						
第651次	法華寺旧境内	10.4㎡	10月11日～10月19日	遺構なし、瓦と土器が出土																																						
第653次	法華寺旧境内	262.6㎡	11月2日～12月16日	南北溝3条、掘立柱建物2棟、柱穴列3条																																						
第654次	西大寺旧境内	146㎡	5年1月11日～2月3日	井戸2基、土坑3基、柱穴1基等																																						
第655次	西大寺旧境内	44㎡	5年3月1日～4月3日	基壇土、壺地業6基、礎石抜取穴6基等																																						

年度計画評価	B				
【評定理由】 ①適時性：地方公共団体等からの要請に対して迅速に対応することで、文化財保護行政及び平城宮京の研究に重要な基礎資料を蓄積することができた。②独創性：文化財行政や学術研究において最大限の成果が得られるよう、複数の要請について戦略的、計画的に対応した。③発展性：遺構面の標高や遺構の分布状況の把握を通じて、今後の遺跡保存対策及び平城宮京の研究に資する情報を獲得することができた。④効率性：発掘調査・立会調査などの作業計画の調整などを通じて、施工者や国民への負担を最低限に留めて調査を効率的に進めることができた。⑤継続性：平城宮京内に位置する遺跡の分布状況や各遺跡の性格についての情報を継続的に蓄積することができた。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) 発掘調査(受託)：6件 立会調査：24件(延べ日数58日)				定量評価
					-

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	地方公共団体等からの要請に応じて適宜、発掘調査・立会等に対応して、文化財保護に資する研究を行い、平城京域における学術的情報の蓄積に貢献した。5年度以降についても、地方公共団体からの要請に対しては都城発掘調査部の他の事業との連携を重視しながら、学術的研究に資する発掘調査・立会に戦略的に対応する計画を立て、平城宮京における遺跡の情報を確実に蓄積していきたいと考えている。以上、計画通り順調に進捗していると判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	
都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)	【プロジェクトスタッフ(責任者に○)】 ○清野孝之(副部長)、山本崇、廣瀬寛、森川実、林正憲(以上、室長)、若杉智宏、山藤正敏、鈴木智大(以上、主任研究員)、福嶋啓人・岩永玲・谷澤重里(以上、研究員)、栗山雅夫(企画調整部写真室主任)	

【年度実績と成果】

飛鳥・藤原地区で地方公共団体等が行う発掘調査等への協力は13件で、土木工事等に伴う立会調査11件と、発掘調査2件(第211-1次・第211-6次)である。立会調査のうち3件(第211-8・9・10次)は、国営飛鳥歴史公園の公園整備に伴うものである。4年度はこれらを効率よく実施し、藤原宮及び飛鳥地域の開発等に対して適切に対応した。

次数	調査地	調査原因	発掘面積	調査期間	概要
第211-1次	橿原市高殿町	個人住宅	16.0㎡	4月18日～4月20日	顕著な遺構を認めず(受託事業)
第211-2次	橿原市高殿町	通路造成	18.0㎡	8月17日～8月19日	顕著な遺構を認めず
第211-3次	橿原市醍醐町	建物除却	24.0㎡	9月1日～10月6日	顕著な遺構を認めず
第211-4次	橿原市醍醐町	柵設置	-	9月5日～9月30日	顕著な遺構を認めず
第211-5次	橿原市醍醐町	配水改善	6.0㎡	9月20日～9月27日	顕著な遺構を認めず
第211-6次	明日香村奥山	個人住宅	26.0㎡	10月3日～10月12日	土坑・柱穴・東西溝を検出
第211-7次	橿原市縄手町	塀撤去	-	10月28日	顕著な遺構を認めず
第211-8次	明日香村豊浦	公園整備	70.0㎡	12月5日～2月8日	顕著な遺構を認めず
第211-9次	明日香村豊浦	公園整備	210.0㎡	12月22日～3月9日	顕著な遺構を認めず
第211-10次	明日香村平田	法面工事	15.0㎡	2月13日～3月1日	顕著な遺構を認めず
第211-11次	橿原市高殿町	水路工事	130.0㎡	2月27日～3月6日	顕著な遺構を認めず
第211-12次	橿原市高殿町	建物除却	21.0㎡	3月6日～3月13日	顕著な遺構を認めず
第211-13次	橿原市高殿町	柵撤去	-	3月30日	顕著な遺構を認めず

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】

①適時性は地方公共団体からの要請に基づき、必要とされる立会調査・発掘調査を適時適切に実施したことからBとした。
②独創性は当研究所による調査研究成果の蓄積を活かし、地方公共団体が行う発掘調査等に協力したためBとした。③発展性は藤原宮及び奥山久米寺において小規模な発掘調査を実施し、その成果を蓄積していることからBとした。④効率性はそれぞれの立会調査・発掘調査を短時間で完了したことからBとした。⑤継続性は飛鳥・藤原地域における発掘調査等の援助事業を50年以上にわたり続けていることからBとした。以上から、事業の進捗状況は所期の計画通りであると判断した。

観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B

【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)	定量評価
	・地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 13件	—

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
----------	---

評定理由	我が国の古代国家成立期の主要舞台である飛鳥・藤原地域の調査研究は、開発事業との調整を適切に図りながら、関係自治体と緊密に連携して今後も継続的に進めていく予定である。中期計画の2年目にあたる4年度は、地方公共団体からの要請に応じて、藤原宮及び奥山久米寺における発掘調査2件に加え、立会調査を11件実施した。以上の評定理由により、Bと評価する。
------	--

中期計画の項目	2-(5)-②-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-1)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 1)文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・調査支援・情報提供等を行う。
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○本中 眞（所長）	
【年度実績と成果】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。 現在就任している専門委員会委員（一部抜粋） ・川崎市橋樹官衙遺跡群調査整備委員会委員 ・静岡市史跡片山廃寺跡整備委員会委員 ・高山市文化財審議会委員 ・明日香村文化財保護委員会委員 ・桜井市山田寺跡保存活用計画検討委員会委員 ・安芸市瓜尻遺跡調査指導委員 ・因幡国古代山陰道発掘委員会委員 ・藍住町勝瑞城館跡調査整備検討委員会委員 ・豊後大野市内遺跡調査指導委員会		

年度計画評価	B				
【評定理由】 下記各観点から評価を行った。 ①適時性については、地方公共団体等の要請に対し、適時・適切に対応した。 ②独創性については、当研究所職員が持つ独自の専門知識を生かし、各委員会等において助言を行った。 ③発展性については、多様な要請に対応し今後の地方公共団体等における事業発展に貢献した。 ④継続性については、継続的に検討が必要な委員会等に対して、再任・任期の延長によって継続的に協力している。 また、新型コロナウイルスの影響により、現地における協力・助言に制限が生じているが、出張だけでなくリモートでの参加により、要請に応じた的確な対応をとることができた。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) ・地方公共団体等が行う文化財及びその保存・活用に関する技術的助言 187件 (委員会出席、審議会出席、その他（現地指導・現地調査等）)				定量評価

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画2年度目として、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・修復・整備事業や、建造物の調査、修復事業について、国・地方公共団体等からの専門的な協力・助言の要請に応じ、適時・適切に対応している。 新型コロナウイルスの影響が引き続き残るが、リモート参加を併用しつつ、国・地方公共団体等との連携・協力体制を維持することができたと判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2) 蓄積されている調査研究成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
東京文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○齊藤孝正（所長）	
【年度実績と成果】 ○国・地方公共団体等が行う文化財の調査・整備・修復・保存・活用等について、受託研究等を行った。 ・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務 ・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務 ・文化遺産国際協力コンソーシアム事業 ・美術工芸品修理のための用具・原材料と生産技術の保護・育成等促進事業（2件） このほか、一般財団法人日本航空協会ほか2機関と共同研究を行った（計2件）。		

年度計画評価	B				
【評定理由】					
下記各観点から評価を行った。①適時性においては、国・地方公共団体等の要請に応じて、喫緊の研究課題を的確に遂行した。②独創性においては、我が国の文化財研究の拠点として、これまで当研究所が蓄積してきた調査・研究の実績を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究に取り組んだ。③効率性においては、多様な研究課題の実施に際し、所内適任者による効率的な調査を実施することができた。④継続性においては、これまで当研究所が受託してきた国宝高松塚古墳壁画、及び国宝キトラ古墳壁画等の研究課題を発展して実施した。					
観点	①適時性	②独創性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	
【目標値】	【実績値・参考値】				定量評価
	(参考値) 受託研究 5件 共同研究 2件				—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由及び今後の見通し	中期計画2年目として、国・地方公共団体等からの共同研究及び受託研究の依頼に対し、中期計画に基づき、文化財に関する当研究所の知見や調査成果を活かし、的確に対応した。多くの機関との共同研究及び受託研究を実施したことにより、文化財に関する調査・研究の中核として、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与できているものとする。 5年度以降も、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与すべく、蓄積されている調査研究成果を活かし、他機関との共同研究及び受託研究に取り組んでいく。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-2)	②文化財に関する協力・助言等 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。 2)蓄積されている調査研究成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
プロジェクト名称	他機関等との共同研究及び受託研究	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○本中眞（所長）	
【年度実績と成果】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等について、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、以下の受託研究等を行った。		
<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（新潟県佐渡市） ・高野山地区建造物調査業務（和歌山県高野町） ・国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務（大分県日田市） ・伊川津貝塚出土資料分析業務（愛知県田原市） ・松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託（島根県松江市） ・明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究（奈良県明日香村） ・史跡關鷄山古墳の調査保存に資する基礎的調査（大阪府高槻市） ・和東の茶業景観における報告書作成業務（京都府和束町） ほか 		

年度計画評価	B				
【評定理由】 下記観点から評価を行った。 ①適時性については、地方公共団体等の要請に応じて適時・的確に調査研究を実施した。 ②独創性については、当研究所が保有する卓越した技術力、そして蓄積された調査研究成果に基づく唯一無二の専門性を生かして、業務を遂行した。 ③発展性については、実施業務は多種多様であり、調査研究によって得られた成果は今後の地方公共団体等の保存・活用に寄与することが期待される。 ④効率性については、受託調査研究にかかる時間と人力等を効率よく配置し遂行した。 上記観点から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	B	B	B	
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) ・受託調査研究受入・実施件数 31件 230,441,895円 (3年度:39件 271,114千円)				定量評価

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	中期計画の2年度目として、随時寄せられる国・地方公共団体等からの要請に対して、受託研究を通じて協力・助言を行った。新型コロナウイルスの影響により実地での調査・研究には引き続き制約が残る場面もあったが、要請に対しては十分に答えることができていると考える。 よって、十分に計画を達成していると判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-②	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-②-3)	②文化財に関する協力・助言等 3)地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力をを行う。
プロジェクト名称	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力	
埋蔵文化財センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○金田明大（埋蔵文化財センター長）、脇谷草一郎（保存修復科学研究室長）、柳田明進（保存修復科学研究室研究員）	
【年度実績と成果】		
<ul style="list-style-type: none"> 28年熊本地震によって被災した熊本県下の装飾古墳の復旧支援のため、各市町の教育委員会によって組織された検討委員会に対して委員として職員を派遣した。 地震によって墳丘封土に物理的な破壊が生じた熊本市の釜尾古墳、玉名市の永安寺東古墳、また被災古墳ではないものの、和歌山市の天王塚古墳を対象として封土を透水性あるいは透湿性を有するシートで覆い、墳丘土壌の水分量をモニタリングすることで、墳丘封土を中長期にわたって養生する適切な材料を検討した。 永安寺東古墳の石室内部温熱環境の実測調査、千金甲古墳の外界気象条件及び墳丘土壌の含水状態の実測調査を継続して行うとともに、千金甲古墳の装飾部を対象にSfMによる簡易三次元モデルを作成し、装飾の保存環境が装飾部の劣化発生に及ぼす影響について継続して検討した。 		
		
		透水性シートで覆われた釜尾古墳墳丘頂部

年度計画評価	B				
【評定理由】					
①適時性については熊本地震により被災した装飾古墳の復旧支援を継続して実施しているとともに、いくつかの古墳では具体的な復旧方法の策定に至っており適時性を持った対応を実施している。②独創性については、物理的な劣化が生じた墳丘封土の養生に透水性を有するシートを適用し、墳丘封土が土の塑性を維持する含水状態を維持し得るか定量的な検討を進めている。シートの透水性が墳丘の保存状態に及ぼす影響についてはこれまで検討例がない。③発展性については、今後地震により同様の被害が発生した際に多くの古墳に適用し得る手法の検討と言える。④効率性としては、新たな手法の活用や、継続的なモニタリングを遠隔地より集約できる試みを通じて、より多数のデータを低コストで利用可能になっている。⑤継続性としては、各調査の長期・短期にわたる目標と計画を策定し、地方公共団体の担当者を含めて事業を遂行している。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値) ・地震等で被災した古墳の調査：3件				定量評価
					—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。
評定理由	自然災害における文化財の保全について、既に発生した被災遺跡の復旧とそれに伴う情報や経験の蓄積は重要なものと考えられる。中期計画の2年目である4年度は、新たに熊本県玉名市及び和歌山県和歌山市の2基の古墳を調査対象に加え、養生に用いるシートの透水性について類例を増やすとともに、継続的かつ適切にこれらの情報収集や対応を進めることができていることから、順調に進捗しているものとして上記の評価とする。

中期計画の項目	2-(5)-③-1)	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備、管理事業への協力
プロジェクト名称	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	
研究支援推進部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○不藤忠義（研究支援課課長）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、岡本保彦（研究支援課係員）、新開良子（研究支援課係員）	
【年度実績と成果】		
<p>(1) 特別史跡平城宮跡内復原整備事業についての助言及び情報提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡歴史公園第一次大極殿院東楼復原整備事業への関係資料の提供及び助言 <p>(2) 平城宮跡及び藤原宮跡内における不具合対応策提案及び維持管理業務の実施を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡及び藤原宮跡の草刈り管理業務 ・平城宮跡及び藤原宮跡の維持管理について資料提供及び助言 ・復原施設、遺構表示、便益施設等故障対応提案 ・近隣住民からの苦情等への確認及び文化庁への助言 ・平城宮跡施設の消防通報訓練への参加 		

年度計画評価	B				
【評定理由】					
<p>①適時性においては、文化庁や国土交通省からの要望に対し、これまでの方針や過去の経緯等の情報提供及び必要な助言を適時的確に行い、3年度同様に継続的な実績を上げた。また、故障等の緊急事案に迅速に対応した。②独創性においては平城宮跡維持管理について過去の調査実績を基づいて助言及び提案を行った。③発展性においては、文化庁、国土交通省等の委員会等への積極的な協力による情報提供を行い、適確な審議が可能となるための助言を行った。④効率性においては、過去の維持管理及び修繕等事業毎に整理された情報を迅速に提供した。⑤継続性においては、整備内容、固執修繕事例を継続的に積み重ねることによって、今後においても必要に応じて情報を提供できるよう修繕履歴の整理を行っている。よって、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。</p>					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】				定量評価
	(参考値) ・各種会議への参加件数（公園整備関係 第一次大極殿院東楼復元工事定例会議 19件） ・資料提供、協議等依頼への対応事項件数（文化庁4件、国土交通省12件） ・立会調査等対応件数（日数）等（文化庁0件、国土交通省3件）				—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	<p>平城宮跡及び藤原宮跡内における維持管理及び修繕等の相談について過去の工事資料・調査実績に基づいて的確に助言等を行い対応している。また、文化庁施設及び国土交通省施設（復原施設・便益施設等）の計画的整備に対しても、必要な情報提供及び助言等の協力を行っており、第一次大極殿東楼復元整備について、定期的に打ち合わせを行った。中期計画として、予定通りに成果を上げることができている。</p> <p>5年度以降も、国土交通省平城宮跡歴史公園整備計画等への必要な情報提供及び助言等を行い、公開・活用事業に継続的な協力を行っていく。</p>

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院を中心とする復原、整備・活用等への協力	
都城発掘調査部 (平城地区)	【プロジェクトスタッフ (責任者に○)】 ○箱崎和久 (都城発掘調査部長兼遺構研究室長)、加藤真二 (企画調整部長)、岩戸晶子 (同部展示企画室長)、今井晃樹 (都城発掘調査部平城地区考古第三研究室長)、西田紀子 (同部平城地区主任研究員)、鈴木智大 (同部飛鳥・藤原地区主任研究員)、山崎有生・目黒新悟 (以上同部平城地区遺構研究室研究員)、福嶋啓人 (同部飛鳥藤原地区遺構研究室研究員)、大林潤 (文化遺産部建造物研究室長)、中村一郎 (企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ (同部写真室主任)、鎌倉綾 (同技術補佐員)	
【年度実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 東楼復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言を行った。また、会議に先立つ勉強会で講師を務めた。箱崎和久「平城宮跡の整備と復原」(7月7日)、箱崎和久「東楼と西楼の発掘調査成果」(8月4日)、浦蓉子「平城宮跡で発掘された木材の見学」(9月15日)。箱崎和久「東西楼の復原」(10月6日) 東楼の瓦製作や納まりについて専門的観点からの助言を行った。出土瓦見学会を2回開催した(9月1日、12月9日)。 定期的に工事進捗状況等を写真撮影(計4回)、写真データを整理・保存した。 第一次大極殿院東楼のボランティア研修資料の作成に協力した。 第一次大極殿院復原研究報告書の本文編・図版編の作成を進めた。 大極殿院の工事に伴う立会調査(計2回) 		
		
		東楼の遺構についての勉強会(8月4日)

年度計画評価	B				
【評定理由】 ①適時性については、従来どおり国土交通省国営飛鳥歴史公園事務所からの要請(勉強会の講師、工事に伴う立会調査、復原工事に対する助言・協力等)に対して適宜対応した。②発展性については、第一次大極殿院東楼の復原建物工事に対して、学術的根拠をもった資料提示と研究成果を提供した。③効率性については、関係者が一同に集まり、検討課題となる現場や実物資料を前に直接説明及び議論を行うことで、要請に対する回答の回数を適切化した。④継続性については、3年度に竣工した南門復原工事に引き続き、東楼復原工事に対して、適宜、研究協力を継続して実施している。また、工事の過程を継続的に撮影し、工事記録の蓄積も行った。					
観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	
【目標値】	【実績値・参考値】				定量評価
	(参考値) 勉強会・研修会の講師協力: 4回、瓦復原への助言: 2回 写真撮影: 4回				-

中期計画評価	B	
中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。	
評定理由	4年度は第一次大極殿院東楼の復原工事が開始した。南門復原時と同様に、復原工事の進捗状況にあわせて、屋根瓦の復原や施工等について助言等を適宜実施した。そのほか、国交省からの要請に基づく勉強会及び研修会を通して、研究成果が復原工事に生かされるよう対応した。5年度以降も継続して適宜、協力していく予定である。以上、中期計画を順調に遂行できていると判断し、Bと判定した。	

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室4（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	
企画調整部	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○岩戸晶子（展示企画室長）、廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー）、下山千尋（同アソシエイトフェロー）、藤田友香里（同アソシエイトフェロー）	
【年度実績と成果】		
<ul style="list-style-type: none"> 平城宮いざない館（以下、いざない館と略記）第4展示室の展示の学芸業務を中心に、いざない館の活動について国土交通省国営飛鳥歴史公園並びに管理センターへの協力を行った。 当研究所所蔵の展示資料の状態確認と日報の作成を行った。井戸部材（廊下）と斎串及び木樋（展示室4）の状態 確認・展示環境を重点モニタリングした。 奈良まほろば館（東京）で開催のいざない館主催の木簡体験ワークショップに学術協力した。（7月8日） 古代の盤上遊戯 かりうち体験イベントを平城宮跡管理センターと共催した。（11月26日） 平城宮跡歴史公園5周年記念展「よろしく都邑を建つべし」展（会期：5年3月25日～5月14日）を管理センターと共催し、奈文研所蔵資料展示品の選定及び貸出、展示作業、記者レク実施などに協力した。 		
【平城宮跡史跡指定 100 周年事業関連】		
<ul style="list-style-type: none"> 通常時は当研究所ではいざない館では主催特別展を開催していないが、史跡指定 100 周年を記念し、特別展「のこった奇跡のこした軌跡ー未来につなぐ平城宮跡ー」を開催した。（10月29日～12月11日） 上記特別展に関して平城宮跡解説ボランティア及び NPO 法人平城宮跡サポートネットワークにレクを実施した。（10月28・29日） 史跡指定 100 周年、平城宮跡及びいざない館も紹介する内容のパンフレットを制作し、全国の文化財関連機関・マスコミ等に配布した。 特別展で展示した、隼人の楯に関わる京田辺市無形文化財である隼人舞を紹介するイベント及びギャラリートークを実施し、来館者の展示に対する一層の理解を促した。（10月29日） 平城宮跡及びいざない館の常設展、上記特別展の解説・案内をニコニコ美術館にて生配信した。（11月12日） 平城宮跡史跡指定 100 周年記念ツアーガイドを NPO 法人平城宮跡サポートネットワークと共催し、実施した。（12月10日） 		
		 <p>展示品の貸出対応作業</p>

年度計画評価	A
--------	---

【評定理由】					
①適時性においては、平城宮跡史跡指定 100 周年に合わせた特別展やイベントの実施のほか、ロゴマークや公式キャラクターの展開・広報活動を行い、周年事業の周知に努めた。②独創性においては、記念特別展の実施、ロゴマークや公式キャラクターの活用を行ったほか、初の試みとしてニコニコ美術館生配信事業に参画した。通常博物館の展示のみを紹介する同事業に対し、野外である平城宮跡と展示室内のいざない館をあわせて紹介する新しい企画を実施しメモリアルイヤーにおける平城宮の魅力が大きくアピールし、好評を得た。③発展性においては、上記特別展において単に平城宮の奈良時代の歴史を紹介するだけでなく、一般的には知られていないいざない館や国土交通省・文化庁など多くの機関が協同して平城宮跡を整備・活用している現況をパネル展示で解説・紹介した。また、ニコニコ美術館の生配信でいざない館の展示室について案内・解説した。これらの活動により、いざない館を知らなかった幅広い層にその存在や展示内容をアピールすることができ、今後の平城宮いざない館での公開・活用事業に大きく寄与できた。④⑤いざない館と緊密に連絡を取り合い、例年になく多量のイベント行事を効率的に遂行できたことは開館から 5 年を迎えた継続的な歩みの成果と効率性、継続性の観点から評価できる。以上から、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。					
観点	① 適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	A	A	A	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】				定量評価
	(実績値)・特別展の実施 1 件 ・入館者数 36,339 人 ・来館者等案内、質問対応、マスコミ・テレビ取材対応など：31 件 ・当研究所所蔵物の貸出、返却、搬出、返却後の原状復旧：50 件 ・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正：4 件 ・旅行会社企画の体験イベント、産学連携事業への専門的助言・協力 1 件 ・ニコニコ美術館視聴数 27,041 件 満足度 99.7%				

中期計画評価	A
--------	---

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	平城宮跡史跡指定 100 周年というメモリアルイヤーにあたり、さまざまなイベント・広報活動をいざない館において、協力・連携して行うことができた。また、3 年度に引き続き、平城宮跡に関わる体験イベントなどを実施できた。これらの協力事業を継続的に実施することによって記念年のイベントや広報をより強力に押し進める成果につながった点は大いに評価できる。以上の取組みから、中期計画 2 年目として想定していた所期の計画を上回る成果をあげられたと判断し、A 評価とした。 5 年度以降も、中期計画全体としての目標を達成すべく、各事業を協力して行う。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-1)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。 1)文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ・国土交通省の平城宮いざない館展示室4（詳覧ゾーン）に関する学芸業務・連絡調整への協力
プロジェクト名称	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	
飛鳥資料館	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○石橋茂登（学芸室長）、瀨松佳生（学芸室アソシエイトフェロー）ほか5名	
【年度実績と成果】 <ul style="list-style-type: none"> 文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営に協力した。 キトラ古墳壁画の第23回公開（5月21日～6月19日）、第24回公開（7月23日～8月21日）、第25回公開（10月15日～11月13日）、第26回公開（5年1月21日～2月19日）の広報物と解説リーフレット（日中英韓の多言語対応）、解説映像、解説音声の作成に協力した。 壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画に込められた思想」（12月15日～5年1月17日）の開催にあたり企画・制作・展示などで協力した。 キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント2回（10月27日～11月6日、5年2月2日～2月12日）を実施し、今回から椅子を座り心地の良いものに変更し好評を得た。 四神の館での乾拓イベント2回の実施に協力した。 キトラ古墳壁画天文図解説映像公開イベント1回（新しい2D版の天文図解説映像の公開とギャラリートーク）、「四神の館文化財講座」講演2回の実施に協力した。 過去に作成したプラネタリウム投影用映像については日本プラネタリウム協議会を通じて他館に提供できるように体制を整えた。 文化庁、国土交通省飛鳥歴史公園事務所、飛鳥管理センターほかと月1回の定例協議を継続した。キトラ古墳周辺地区内の飛鳥管理センターとは毎日ミーティングを行い、広報等についても協力した。 		



プラネタリウムの様子

年度計画評価	A
--------	---

【評定理由】					
①適時性 プラネタリウムイベントは秋の天文図公開に合わせて実施し好評を得た。					
②独創性 キトラ古墳天文図を題材にした2D版解説映像の公開と研究成果を活かしたギャラリートーク、研究員の専門を活かした講座はオリジナリティが高い。					
③発展性 関係者の連絡会議には年度途中から星野リゾート、明日香村観光協会、明日香村文化財課も会議に順次参加し、さらに連携が強化されており、今後の新しい展開が期待できる。また、過去に作成したプラネタリウム投影用映像を他館に提供できるようになり、今後の利用促進が期待できる。					
④効率性 施設の管理運営については例年の作業を継続し効率よく順調に運営できた。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	
定性評価	B	A	A	B	
【目標値】		【実績値・参考値】			定量評価
		参考値)・壁画公開実施 4回 ・リーフレット 4枚 (ア～エ) ・協議等回数 計12回 ・移動プラネタリウム 2回 ・講演等 5回 (オ～キ)			—
ア	リーフレット『令和4年度 キトラ古墳壁画 第23回公開』5月21日発行				
イ	リーフレット『令和4年度 キトラ古墳壁画 第24回公開』7月23日発行				
ウ	リーフレット『令和4年度 キトラ古墳壁画 第25回公開』10月15日発行				
エ	リーフレット『令和4年度 キトラ古墳壁画 第26回公開』5年1月21日発行				
オ	キトラ古墳壁画天文図 解説映像公開イベント「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」講師：若杉智宏（12月23日・30人）				
カ	乾拓イベント『キトラ古墳遺跡見学と乾拓体験』 内田和伸・王杰（11月5日・6日）				
キ	講演 瀨松佳生「漆喰に描く」・王杰「どう違う？古墳壁画と石窟壁画」（5年2月17日・35人）				

中期計画評価	A
--------	---

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	壁画公開はパターン化していた春夏秋冬の壁画公開順を変更し、新鮮味を出して観光客のニーズに応えた点が評価できる。プラネタリウムもキトラ天文図と関連が深い独自性が高い企画であるとともに、他館への提供や2D版映像の作成で今後の展開と活用が期待できるようになった。 文化庁、国営飛鳥歴史公園との連携も順調に進んでおり、イベント共催といった面で専門性を活かして相乗効果を発揮できている。よって目標を上回る成果を上げることができたと評価できる。

中期計画の項目	2-(5)-③	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-③-2)	③平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 2)NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力
プロジェクト名称	NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	
	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】○井関信雄（連携推進課長）、不藤忠義（研究支援課長）、田島章雅（連携推進課課長補佐）、永野陽子（研究支援課課長補佐）、桑原隆佳（連携推進課広報企画係長）、新開良子（研究支援課事務補佐員）	
【年度実績と成果】		
1) NPO 法人平城宮跡サポートネットワークへの協力 ○NPO 法人平城宮跡サポートネットワークの事業等における、会場提供等及び情報共有のための会議開催の協力を行った。 ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークとの定期連絡会議（月1回開催、年計12回開催） ・平城宮跡歴史公園ガイド連絡協議会（NPO 法人平城宮跡サポートネットワークを含む奈良県、国交省の委託業者との4者での会議：2ヶ月に1回開催、年計6回開催） ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークが行う美化運動・防災・防犯パトロール活動に参加協力を行った。（12回/年） ・NPO 法人平城宮跡サポートネットワークが刊行する広報誌「天平のひろば」掲載のためのインタビューに協力した		
2) 周辺自治会等への協力 佐保川地区社会福祉協議会主催の「かりうち」競技会への指導を行った。（3月25日）		
3) その他 ・職場体験学習の支援（田原中学校（8月31日～9月2日）（参加人数1名）、都跡中学校（12月1日～2日）（参加人数3名）） ・職場見学（バックヤードツアー）の支援（奈良教育大学附属中学校（8月24日）（参加人数19名）） ・職場紹介のキャリア教育講座への研究員派遣（富雄中学校（9月6日）（派遣人数1名））		

年度計画評価	B
--------	---

【評定理由】					
①適時性については、NPO 法人の活動に継続して協力すると共に、NPO 法人との定期的な情報共有、意見交換を行う連絡会議を月1回実施し、活動再開した平城宮跡解説ボランティア活動の参考に資することができた。また、平城宮跡歴史公園の設置に伴う情報共有、意見交換を行うため、NPO 法人を含む奈良県、国交省の委託事業者との4者会議を定期的に開催したことにより継続して連携協力関係を維持し、平城宮跡の活用の重要性について認識することができた。②発展性については、周辺自治会が企画するイベントへの協力を通じて、当研究所の研究成果を広く情報発信を行うことができた。③効率性については、NPO 法人等との定期会議等開催において、当研究所の施設を利用し効率性を維持した。④継続性については、NPO 法人への支援や、周辺自治会への協力を引き続き実施し、協力体制を継続的に維持させることができた。以上により、本事業については、順調かつ効率的に事業が推移していると判断した。					
観点	①適時性	②発展性	③効率性	④継続性	
定性評価	B	B	B	B	
【目標値】	【実績値・参考値】 (実績値)				定量評価

中期計画評価	B
--------	---

中期計画記載事項	文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の整備及び公開・活用事業に協力する。また、NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。
評定理由	4年度は計画通り、各種ボランティア活動への協力体制を維持し事業計画を達成し、活動再開した平城宮跡解説ボランティア活動にも資することができた。培ってきた連携協力関係を基礎として、5年度以降も継続して協力を行えると判断し、B評価とした。

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院教育の推進 連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進 ・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)
プロジェクト名称	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	
保存科学研究センター	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○朽津信明（修復計画研究室長）、犬塚将英（分析科学研究室長）、早川典子（修復材料研究室長）、佐藤嘉則（生物科学研究室長）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、前川佳文（文化遺産国際協力センター）	
【年度実績と成果】 教育効果とその時々々の感染状況とを考慮し、オンライン講義と対面講義を併用して教育を進めた。		
○4年度開講した授業及び担当教員、受講者数 保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 朽津信明・犬塚将英・佐藤嘉則 17人（聴講1人） 修復計画論（前期、木曜1限） 2単位 朽津信明・安倍雅史・前川佳文 15人 修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位 早川典子 16人 保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 犬塚将英・佐藤嘉則 12人 文化財保存学演習 講師：早川典子 「化学の原理から学ぶクリーニングの基礎」 日時：7月19日(火)13～17時、18人		
大学院入試 修士課程 9月20～21日 受験者1人 合格者1人		
○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力 教員会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力		
		
		文化財保存学演習風景

年度計画評価	B				
【評定理由】 下記各観点から評価を行った。①コロナ禍での感染状況に応じて、対面授業とオンライン授業とを有効に組み合わせハイブリッドで講義を行うことで、社会情勢に応じて最適な教育を行うことができたため、適時性の高い成果を挙げられた。②独創性においては、諸事情でリアルタイムで受講できなかった学生に対してオンライン講義の特性を活かして再配信で対応するなど、社会情勢を踏まえた独自の講義を行えた。③4年度は修士課程入試で1人の合格者を得て、5年度以降の教育効果の発展性が期待される。④効率性においては、対面とオンラインを効率的に使い分け、教育効果を挙げることに寄与した。⑤継続性においては、藝大との協力関係を維持することによって、最新の研究成果を若手人材育成に有効活用できている。コロナ禍でも、その時々々の社会情勢に応じて柔軟な対応で教育の水準を維持し、計画通りの成果を挙げることができた。と判断した。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	A	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】(参考値) ・開講時間：前期 火曜1限、木曜1限、木曜2限 / 後期 火曜1限 ・開講回数：90分×各15回、受講者数：延べ60人 ・開講時間 1限 9:00～10:30 2限 10:40～12:10 3限 13:00～14:30 ・開講回数 計4コマ 各2単位 ・大学院合格者 修士課程1人				定量評価
					—

中期計画評価	B
中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	修士入試を行い、結果として合格者が出たことから、4年度からの大学院教育が一層充実することが予想される。大学側からの評価も高く、コロナ禍でオンラインと対面との使い分けで教育レベルを保つことができた。以上の理由から、中期計画の予定通り、順調に遂行されたと言える。

中期計画の項目	2-(5)-④	地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等
年度計画の項目	2-(5)-④-1)	④連携大学院との連携教育等の推進 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進及び奈良大学への教育協力の実施 ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論） ・奈良女子大学大学院：人文科学（比較文化学） ・奈良大学：「文化財修景学」
プロジェクト名称	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進及び奈良大学への教育協力	
奈良文化財研究所	【プロジェクトスタッフ（責任者に○）】 ○本中眞（所長）	
【年度実績と成果】		
○客員教授・准教授として学位審査及び各専門分野に関する講義、演習、実習を開設し、大学院生の研究指導を実施。 京都大学大学院人間・環境学研究科 ・高妻 洋成「保存科学論 1・2」「文化遺産学演習 5A・5B」 ・馬場 基「史料学論 1・2」「文化遺産学演習 3A・3B」 ・山崎 健「環境考古学論 1・2」「文化遺産学演習 4A・4B」 ・清野 孝之「埋蔵文化財調査・研究・保護論」「文化遺産学演習 1A・1B」 ・玉田 芳英「原始・古代精神文化論」「文化遺産学演習 2A・2B」 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科 ・今井 晃樹「東アジア考古学特論」「東アジア考古学演習」 ・神野 恵「歴史考古学特論」「歴史考古学演習」 ・桑田 訓也「木簡学特論」「木簡学演習」		
○奈良大学との教育協力協定に基づき、職員を奈良大学に派遣し、講義、演習、実習を通して大学生への研究指導を実施。 奈良大学文学部文化財学科（新型コロナウイルス感染防止のため、3年度に引き続きオンデマンドで実施した） ・内田 和伸、中島 義晴「文化財修景学」		

年度計画評価	B				
【評定理由】					
①適時性においては、本務において得た最新の研究成果などを基に研究指導を行った。②独創性においては、当研究所が長年培ってきた専門知識を教授することができた。奈良大学「文化財修景学」の講義においては、平城宮跡見学を実施し、木簡に関する展示「地下の正倉院展」も観覧させることで、遺跡への理解を深める工夫をした。③発展性においては、連携大学院及び大学における講義や研究指導を通じて、次世代の研究者の育成・発展に大きく貢献した。④継続性においては、大学との連携協定を基に長年継続しており、継続的に実施することができた。文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材育成について、計画どおり寄与することができた。					
観点	①適時性	②独創性	③発展性	④効率性	⑤継続性
定性評価	B	B	B	B	B
【目標値】	【実績値・参考値】 (参考値) ・受入学生数 京都大学大学院 11人 奈良女子大学大学院 4人 奈良大学 83人				定量評価
					-

中期計画評価	B
中期計画記載事項	連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。
評定理由	連携大学院協定及び教育協力協定に基づき、これまで蓄積してきた研究成果を基に連携大学院との連携教育や大学への教育協力を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材の育成に貢献できた。よって、中期計画2年目として順調に成果を挙げているものと判断した。